

昭島市障害者地域支援協議会「専門部会」報告書

専門部会名称	相談支援部会		
平成 28 年度 取組目標	・すべての障害のある方のニーズに寄り添って、その人らしい生活が実現できるように、ライフステージに沿ってトータルに相談支援の充実を図ることを目的とする。		
近況報告	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者・知的障害者相談員の方々にも部会の構成員として参加していただき、当事者・家族の目線からご意見をいただいている。 ・12月にはサービス等利用計画作成に関する勉強会を開催し、各事業所のサービス等利用計画を見ながら議論を行った。計画作成について改めて学び合う良い機会となった。 ・1月は介護福祉課谷部係長、東部包括支援センター大山 CM を講師としてお呼びし、介護保険制度や4月より始まる介護予防・総合事業等について学んだ。障害のある方々の介護保険移行時の65歳問題、他法との関係性についてなど、部会員からの質問もあり介護保険制度について理解を深める事が出来た。 		
現状と課題	解決のための方法	実施したこと	今後の課題
<p>◎市内の社会資源の不足（ショートステイ、グループホーム、日中活動、就労・生活支援センター等）</p> <p>◎災害発生後の安否確認システムの確立が不十分である。</p> <p>◎相談支援事業所マップの完成。</p> <p>◎地域での連携の重要性。（特に教育機関や医療機関）</p>	<p>◎今後も部会で事例検討を通して地域の課題を抽出、整理し地域支援協議会で取り上げてもらいたい課題を挙げて行く。</p> <p>◎災害発生後の安否確認システムの確立については他部会との話し合いを行い具体的な検討が必要。</p> <p>◎完成した相談事業所のマップが活用されるように配布先や普及の方法を検討していく。</p>	<p>◎隔月で担当事業所から提出された事例検討と障害福祉計画策定のための基礎調査報告書の各章を読み込み、地域生活における課題の抽出を行った。</p> <p>◎10月は前半期の事例検討と実態調査のまとめを行った。前半期で挙げた課題を更に抽出し、地域支援協議会で取り上げてもらいたい案件や相談支援部会で取り組める事、他部会と連携していく事等を細分化した。</p>	<p>◎地域の課題を相談支援部会だけでなく他部会とも連携し検討を行なっていく必要がある。課題として早急に取り組むべき事を整理し、プロジェクト化や事業化にしていく際には予算など具体的に検討していく。</p> <p>◎市内の社会資源の不足は長年の検討課題であり、地域支援協議会を通して、自立支援推進協議会にあげてもらい第5期福祉計画へ反映してもらおう要望したい。</p>
自由 記載欄			

昭島市障害者地域支援協議会「専門部会」報告書

専門部会名称	就労支援部会		
平成 28 年度 取組目標	1. 就労部会の目的確認：障害のあるすべての人のニーズに寄り添い、その人らしい就労生活の実現のためにライフステージに沿ったトータルのな就労支援の充実を図ることを目的とする。 2. 部会委員の情報共有とスキルアップ（研修会・見学会の実施） 3. 市役所実習の実施		
近況報告	1. 8月19日（金）ワークセンターこむたん（府中市）事務局訪問・打ち合わせ 2. 9月27日（火）第2回就労部会・株式会社ベネッセビジネスメイト見学 3. 10月17日（月）市役所実習振り返りと次年度検討（福祉課・学校・部会） 4. 12月14日（水）第3回部会・研修会「就労継続B型事業所の工賃アップを考える」 5. 3月1日（木）第4回部会 今年度の振り返りと次年度に向けて他検討		
現状と課題	解決のための方法	実施したこと	今後の課題
○就労促進と就労機会の拡大 ○就労移行支援事業所の就労移行の取組が不十分⇒周知不足。職場開拓	○継続的な市役所実習の実施 ○理解啓発パンフを作成し、広く市民と市内企業に受注も含めPRする	○市役所実習実施と次年度計画作成 ○啓発パンフ（案）作成 ○就労移行支援事業所を市が聞取り	○対象者拡大と庁内理解啓発 ○企業理解啓発・協力依頼（パンフ配布、商工会）○要因分析不足
○就労継続B型事業所の工賃アップの取組 ○就労意欲・準備性の向上	○工賃アップ部会との連携・協働	○「就労継続B型事業所の工賃アップを考える」研修会の実施	○現場のスタッフが参加できる研修会の実施
○支援者の理解啓発とスキルアップ	○情報提供・共有 雇用企業・特別支援学校見学	○見学：都立青峰学園・あきる野学園・株式会社いなげや八王子セレクト・株式会社ベネッセビジネスメイト	○事業所内での情報共有 ○障害者雇用施策等の理解
自由 記載欄	○今後の予定：市役所実習担当者打ち合わせ（4月11日か12日）平成29年度第1回部会（5月12日） ○「昭島市在住の障害者の就労支援と共生」（庁内実習・雇用率アップに向けての検討・育成・就労の場の確保等）について市役所全体で知恵を出し合い、政策調整する全庁的「障害者就労促進連絡会」（仮称、障害者福祉、教育委員会、産業振興、総務などで構成）を設置、第5期障害者福祉計画に明記することで、昭島市らしい誇れる取組が可能となる。		

昭島市障害者地域支援協議会「専門部会」報告書

専門部会名称	当事者部会			
平成 28 年度 取組目標	障害者同士のコミュニケーションと相互理解の推進および当事者の声を取り上げてまとめ、全体会議に提議し、障害者福祉向上につなげていく。			
近況報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 月 1 5 日に、当事者懇談会を実施した。 部会メンバー以外の障害者の参加が多数あり、お互いの生活状況を知ることができ、有意義な懇談会となった。 ・ 1 月 2 7 日に、臼井市長との懇談会を実施。時間が短く、表敬訪問みたいになったが、今後、懇談の機会を設ける約束を取り付けることができたことは成果だった。 			
	現状と課題	解決のための方法	実施したこと	今後の課題
	・ 他障害者への理解不足のため 障害者間に差別が生じている	・ 他の障害者同士コミュニケーションと相互理解の機会を設ける	・ 障害者当事者懇談会を実施	・ もっと深く知りお互いのことを理解し合い、障害者間の差別をなくしていく。
自由 記載欄	部会で、自由に意見交換することにより、少しずつお互いのことが理解できる環境が出来てきているように感じている。			

昭島市障害者地域支援協議会「専門部会」報告書

専門部会名称	こども支援部会		
平成 28 年度 取組目標	障害のあるこども達と家族のニーズに寄り添い、人権が尊重され、安心安全な生活の中で、もてる可能性を十分に伸ばすことのできる支援の在り方を考える。		
近況報告	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年 1 月 16 日 昭島市子ども家庭支援センターの「昭島市児童発達支援センター」担当係長、担当職員を招いて「昭島市児童発達支援センター」の経緯と現況、今後の予定等の話を聞く勉強会を開きました。(メンバー全員出席でした。) ・平成 29 年 3 月 6 日「地域支援拠点」プロジェクトチームのメンバーより、「地域支援拠点」の話を聞き、昭島市の現況や今後あってほしい施設や制度について話合いました。各自持ち帰り、4 月に持ち寄ってこども部会としての意見をまとめる予定です。 		
現状と課題	解決のための方法	実施したこと	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・部会のメンバーが昭島市の障害のある子どもに対しての制度の共通理解が出来ていない。 ・ショートステイが少ない。 ・移動支援をしている事業所が少ない為利用できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会を開いて色々学習しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子育て世代包括支援センター」についての勉強会 ・「昭島市児童発達支援センター」についての勉強会 ・「地域支援拠点」についての話を聞いた上での意見交換。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「昭島市児童発達支援センター」「地域支援拠点」については、まだ決まってない事、見えてない事が多々あるので、今後の動向を見つつ担当者からも話を聞いてゆく。
自由 記載欄	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度は、サロンのものをひらいて障害をもっている子どもの保護者に「こども支援部会」の事を知ってもらい、保護者から広く話を聞いて、ニーズを把握していく。障害福祉課の職員に来ていただいて、市の障害児に対する考え等の話を聞く。等を予定しています。 		

昭島市障害者地域支援協議会「専門部会」報告書

専門部会名称	生活支援部会		
平成 28 年度 取組目標	障害のあるすべての人のニーズに寄り添って、その人らしい地域生活が実現できるように、ライフステージに沿ってトータル的に生活支援の充実を図ることを目的とする。		
近況報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備会での情報交換・現状把握（7月～10月） ・ 11月25日 第1回部会 各専門員で議論・検討を行い、現状を確実に把握、生活支援における課題を明確にした。 ・ 12月20日 第2回部会 グループホームベアラーの家見学会を行い、実際に生活している人からもお話頂いた。 ・ 1月23日 第3回部会 専門員に新しいメンバーが加わり、情報交換と現状課題の整理をした。 ・ 2月13日 第4回部会 生活支援の課題の整理と解決のための方法を議論した。地域生活支援拠点プロジェクト担当者を選出。 ・ 3月13日 第5回部会 		
現状と課題	解決のための方法	実施したこと	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ ヘルパー人材不足（確保と育成） ・ ヘルパー不足で必要な支援の依頼に応えられていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修開催や子育て中の年代の人の集まりにチラシを配るなど働きかけ ・ 現ヘルパーのスキルアップ研修の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所の実態調査（集計）を行う ・ 在宅に深く関わる訪問看護師の話を聴く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談支援事業所との連携 ・ 医療との連携 ・ 各ヘルパー事業所の連携
<ul style="list-style-type: none"> ・ グループホームの不足（本人の状況・希望に合っているか）・ニーズに合ったバリアフリー化ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人や家族のニーズとの調整のために相談支援事業と連携する ・ 介護保険との併用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12/20現状把握のためグループホームの見学を行った。 ・ 事業所の実態調査（集計）を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域への働きかけ・世話人だけでなく、相談支援や後見人など支援者の合議で、本人が意思決定しやすいよう連携する
<ul style="list-style-type: none"> ・ 昭島市にショートステイが現在1床のみ・緊急ショートステイに対応できない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在のグループホームの空き部屋で対応できるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所の実態調査（集計）を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ショートステイを増やす ・ 体験的なショートステイを確保
自由 記載欄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部会委員のメンバーとしては、事業所だけではなく、重要な関係機関として高齢者の分野から地域包括支援センター、社会福祉協議会の地域福祉・後見支援センター、医療の分野から訪問看護など、地域生活で連携が必要な職種の方に入っていた。 		

昭島市障害者地域支援協議会「専門部会」報告書

専門部会名称	日中活動部会		
平成 28 年度 取組目標	すべての障害のある方のニーズに寄り添って、その人らしい生活が実現できるように、ライフステージに沿ってトータルに日中活動支援の充実を図ることを目的とする。		
近況報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回日中活動部会は 1 月 13 日 9:30～12:00 で都立あきる野学園の見学会を行った。出席者は都立村山特別支援学校の教員 1 名の他、日中活動部会の各事業所メンバーにも呼びかけ、みしょう 3 名、リサイクル洗びんセンター 2 名、虹のセンター 25 1 名、昭島生活実習所 4 名の計 11 名で行った。 ・ 見学内容は学校の概要説明の他、進路指導の流れ、卒業後の本人支援のあり方の説明を受け、作業学習（木工、食品加工、陶芸、農園芸、手工芸、紙工芸）の各部屋の見学を行った。 		
現状と課題	解決のための方法	実施したこと	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業学習を見学し、各作業とも一人ひとりに合った方法で支援が行われていた。基本的に 3 年間同じ作業班に所属するとのことであるが、卒業後そのスキルを生活介護事業所で活かさきれていないと考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員は各事業所に訪れ、引継ぎを行うが、各事業所側も卒業生の受入れ前に学校訪問を行い、3 年間の積み重ねをしっかりと把握して受け入れる必要があった。そのことにより、一貫した支援の構築が望めると考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都立あきる野学園の見学を行い、5 月には都立村山特別支援学校の見学を行う予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ TEACCHプログラムでは幼少期から成人に至るまで一貫した支援が組み立てられている。学校から生活介護事業所への移行期に双方がさらに連携し、円滑な移行を進めていく事が課題として挙げられた。
自由 記載欄			

昭島市障害者地域支援協議会「専門部会」報告書

専門部会名称	防災部会		
平成 28 年度 取組目標	昭島市から死者を出さない		
近況報告	<p>7月7日 保健所保健師さんと役員の会合 在宅で人工呼吸器使用者など災害時生命のリスクの高い人への保健所の取り組みについて</p> <p>8月30日 市の各課との話し合い・障害福祉課 常設要援護者支援班班長兼務 山崎課長防災課 永井課長滑川課長</p> <p>10月6日 前回の振り返り・要支援者名簿について・学校避難所について</p> <p>12月13日 部会の開催 ・要援護者名簿に関する事・福祉センター避難所開設に関する事・避難所について・市との話し合いについて</p> <p>2月9日 市の取り組み状況についての報告 障害福祉課常設要援護者支援班班長兼務 山崎課長・防災課 永井課長・滑川課長・西沢要援護者名簿担当 要援護者名簿・備蓄備品（ベット・トイレ）の確認・会館避難所と福祉避難所について・来年度の取り組みについて</p>		
現状と課題	解決のための方法	実施したこと	今後の課題
災害時要支援者への取り組みが足りていない。	現時点では情報を集める必要がある。	多摩立川保健所の保健師と役員の会合 市役所との検討会（2回）	今後、市が要援護者名簿を作成していくために、部会としても協力をしていく。備蓄備品の情報共有
自由 記載欄	熊本地震など新しい知見も踏まえて最善の計画を策定したい 情報は、新たなものが常に入ってくるので、討議を重ねながら、具体的な計画を更新し常に行動していく。		